

群馬県内における流水性甲虫類について

茶珍 護 (群馬県立ぐんま昆虫の森)

はじめに

群馬県内における流水性の水生昆虫は、カゲロウ目、カワゲラ目、トビケラ目などでは比較的調べられている(群馬県, 1985)。一方、流水性のコウチュウ目(甲虫類)についての報告は少ない。

河川などの流水域で生息している甲虫類の仲間には、ゲンゴロウ科、ミズスマシ科、ガムシ科、ダルマガムシ科、マルハナノミ科、ヒラタドロムシ科、ナガハナノミ科、ヒメドロムシ科、ホタル科などが知られている。近年、林(2008)により、これまで県内でほとんど報告がなかったダルマガムシ科やヒメドロムシ科の甲虫類を含む8科20種が報告されている(林, 2008。)著者は、2012年に群馬県内の数カ所で調査を行い、若干の成果が得られたので、これまでに報告されているものを含め、不十分ではあるが現時点での県内における流水性甲虫類をまとめた。

調査方法

調査は各地点において、メッシュ1mmのDフレームネットを使ったすくい採りを行い、採集を行った。またヒメドロムシ類の採集では、洗濯ネットを利用した底の部分を開けたネットも使用した。さらに流路中に突き出た岩や礫の水際を目視により探すことでダルマガムシ類を調査した。

採集した甲虫類は70%エタノールに保存し、一部は乾燥標本とした。得られた標本はすべて群馬県立ぐんま昆虫の森に保管されている。



図1. ハセガワセスジダルマガムシ
スケールは1mm



図2. ヒメマルヒラタドロムシ(幼虫)
スケールは1mm

調査結果および群馬県内で確認されている流水性甲虫類

本調査で確認された流水性甲虫類は7科14種であった。このうち、ダルマガムシ科のハセガワセスジダルマガムシ(図1)、ヒラタドロムシ科のヒメマルヒラタドロムシ(図2)は群馬県初記録である。これまでに群馬県内で確認されている流水性甲虫類は、文献記録とあわせると9科36種となった(表1)。

表1. 群馬県内で確認されている流水性甲虫類

科名	和名	学名	文献記録	本調査で確認
ゲンゴロウ科	チャイロシマチビゲンゴロウ	<i>Nebrioporus anchoralis</i> (Sharp)	2), 3)	
	ヒメシマチビゲンゴロウ	<i>Nebrioporus nipponicus</i> (Takizawa)	2)	
	マルガタシマチビゲンゴロウ	<i>Oreodytes sanmarkii</i> (C.R.Sahlberg)	2)	
	ゴマダラチビゲンゴロウ	<i>Oreodytes natrix</i> (Sharp)	1), 2), 3)	
	モンキマメゲンゴロウ	<i>Platambus pictipennis</i> (Sharp)	1), 2), 3), 4)	○
	キベリマメゲンゴロウ	<i>Platambus fimbriatus</i> (Sharp)	2), 3)	○
	サワダマメゲンゴロウ	<i>Platambus sawadai</i> (Kamiya)	2), 3)	
	クロマメゲンゴロウ	<i>Platambus nakanei</i> (Nilsson)	2), 3)	
	ホソクロマメゲンゴロウ	<i>Platambus optatus</i> (Sharp)	2)	
	オオイチョモンジシマゲンゴロウ	<i>Hydaticus pacificus conspersus</i> (Regimbart)	1), 2), 3)	
ミズスマシ科	オナガミズシマシ	<i>Orectochilus regimbarti regimbarti</i> Sharp	1)	
ガムシ科	マルガムシ	<i>Hydrocassis lacustris</i> (Sharp)	3), 4)	○
	コモシジミガムシ	<i>Laccobius oscillans</i> Sharp	1)	
ダルマガムシ科	セスジダルマガムシ	<i>Ochthebius inermis</i> Sharp	1)	
	ハセガワセスジダルマガムシ	<i>Ochthebius hasegawai</i> Nakane et Matsui		○
マルハナノミ科	クロマルハナノミ	<i>Odeles wilsoni</i> (Pic)	1)	○
ヒラタドロムシ科	ヒメマルヒラタドロムシ	<i>Eubrianax pellucidus</i> Lewis		○
	クシゲマルヒラタドロムシ	<i>Eubrianax granicollis</i> Lewis	3), 4)	
	ヒラタドロムシ	<i>Mataeopsephus japonicus</i> (Matsumura)	1), 3), 4)	○
	マスダチビヒラタドロムシ	<i>Malacopsephenoides japonicus</i> (Masuda)	1), 4)	
	チビヒゲナガハナノミ	<i>Ectopria opaca opaca</i> (Kiesenwetter)	1)	
ナガハナノミ科	エダヒゲナガハナノミ	<i>Epilichas flabellatus flabellatus</i> (Kiesenwetter)	3)	
ヒメドロムシ科	アカモンミゾドロムシ	<i>Ordobrevia maculata</i> (Nomura)	1)	
	ゴトウミゾドロムシ	<i>Ordobrevia gotoi</i> Nomura	1)	○
	セアカヒメドロムシ	<i>Optioservus maculatus</i> Nomura	1), 5)	
	マルヒメドロムシ属の一種	<i>Optioservus</i> sp.	1)	
	スネアカヒメドロムシ	<i>Optioservus variabilis</i> Nomura	5)	○
	クボタマルヒメドロムシ	<i>Optioservus kubotai</i> Nomura	4), 5)	
	ツヤヒメドロムシ	<i>Optioservus nitidus</i> Nomura	1)	○
	ツヤナガアシドロムシ	<i>Grouvellinus nitidus</i> Nomura	1), 6)	○
	マルヒメツヤドロムシ	<i>Zaitzeviaria ovata</i> (Nomura)	1)	○
	ツヤドロムシ	<i>Zaitzevia nitida</i> Nomura	1)	○
	ミゾツヤドロムシ	<i>Zaitzevia rivalis</i> Nomura	1)	
アカツヤドロムシ	<i>Zaitzevia rufa</i> Nomura et Baba	7)		
ホタル科	ゲンジボタル	<i>Luciola cruciata</i> Motschulsky	1), 3)	○

1) 林, 2008 2) 森・北山, 2002 3) 須田, 1985 4) 土屋・宮原, 1987
5) Nomura, 1958 6) Nomura, 1963 7) 上手・疋田, 2010

群馬県内での流水性甲虫相の解明度は、関東地方の他県に比べていちじるしく低い(林, 2008)。今後も流水性甲虫類をはじめとする水生甲虫相の解明に向けて、引き続き調査を継続したい。

引用文献

- 林 成多 (2008) 群馬県で採集した流水性甲虫類. 甲虫ニュース,(164):11-13
 上手雄貴・疋田直之(2010) 群馬県におけるアカツヤドロムシの記録.甲虫ニュース,(169):6
 森 正人・北山 昭 (2002)「改訂版 図説日本のゲンゴロウ」172-175p. 文一総合出版
 Nomura,S.(1958) Notes on the Japanese Dryopoidea(Coleoptera),with two species from Saghalien. *Toho-Gakuho*,(8):1-15.
 Nomura,S.(1963) Note on the Dryopoidea(Coleoptera)IV. *Toho-Gakuho*,(13):41-56,1pl.
 須田 亨 (1985) 群馬県の甲虫類. 「群馬県動物誌」: 305-387p. 群馬県
 土屋・宮原 (1987) 水生昆虫. 「桐生市動物誌」:185-211p.桐生市教育委員会